

細則様式第 4 号

論文審査及び最終試験結果報告書			
氏 名	中川 孝子		
入学年度	平成 27 年度	学籍番号	15GG601
領 域	健康支援科学	分 野	健康増進科学
審査委員	主 査	和田 一丸	
	副 査	中村 敏也	
	副 査	藤田 あけみ	
	副 査	西沢 義子	

論文題目： 認知症高齢者のその人らしさを尊重したケアに関する研究

審査結果要旨：

認知症高齢者の「その人らしさを尊重したケア」を明確にし、認知症ケアの実践における新たな知見を得ることを目的とし、研究Ⅰでは医学中央雑誌 Web 版と CiNii Articles による文献検討、研究Ⅱでは研究Ⅰで得られた 8 つのカテゴリーを基に認知症ケア専門士 21 名を対象に半構造化面接を行い、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて質的に分析した。研究Ⅲでは全国 329 か所のグループホームのうち 32 施設の職員 250 名を対象に研究Ⅱで得られた 14 の概念についての認識ならびに実施状況について郵送による質問紙調査を行った。

研究Ⅰでは 16 の文献から、〈生活習慣の支援〉〈人生歴の把握〉〈人や物との繋がりのアセスメント〉〈環境調整〉〈希望の成就〉〈価値観の尊重〉〈役割遂行の支援〉〈能力のアセスメント〉の 8 つのカテゴリーが抽出された。研究Ⅱでは認知症高齢者の「その人らしさを尊重したケア」として、14 の概念、4 つのカテゴリー〈個の重視〉〈思いの尊重〉〈強みへの働きかけ〉〈密な相互関係〉が抽出され、英国で提唱された Person-centered Care の内容をすべて包括しており、さらに〈強みへの働きかけ〉という新たな内容が抽出された。研究Ⅲでは認知症高齢者の「その人らしさを尊重したケア」14 項目すべてにおいてケアの必要性を認識しているものの、実施得点が有意に低く、実施には認知症ケア経験年数が関連していた。本研究から日本において曖昧であった「その人らしさを尊重したケア」が明確となり、今後の認知症高齢者のケアに対する重要な示唆が得られた。

審査論文ではこれらの研究内容について系統的かつ過不足なく論述されており、新たな知見を含んでいることが認められ、学位審査会における質疑応答も適切であった。

以上により、本論文は博士(保健学)の学位論文に値すると認められた。

最終試験 平成 30 年 1 月 29 日

試験の結果は 合格 ・ 不合格 と判定する。